

“AIの正しい使い方” 探すのやめませんか？

面倒くさいことを、言葉にするところから始めればいい



AIがすごいのはわかった。
でも、結局のところ、
どう活用すればいいのだろう？

そう感じて、立ち止まったことはないだろうか。



便利だと聞くたびに新しいAIツールを試し、使い方の記事を読みあさる。

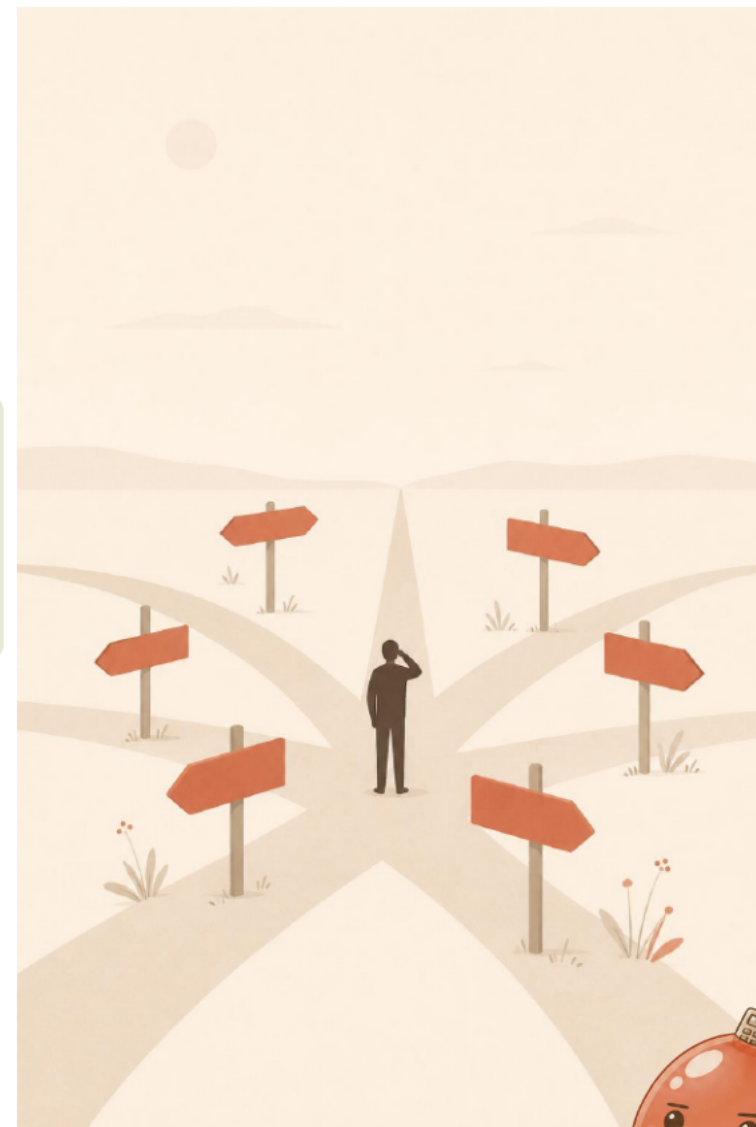
それでも「AI導入って何から手を付けたらいいの?」「実践に役立つ活用方法がわからない」



「正しい使い方」を探すほど、 動けなくなる

誰かが用意した「正しい使い方」は、その人の仕事のためのもの。
あなたの毎日の面倒くさい作業に、ぴったり合う保証はどこにもない。

正解を探すのはやめよう。
自分で作るしかないのだから。



私が回している、たった4つのループ

①言語化



②つくる



③使う



④直す



満足いくまで、この4つを繰り返す

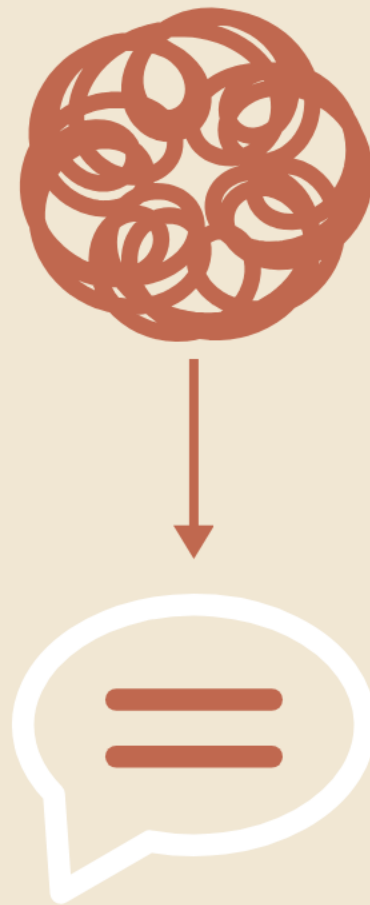


1

言語化

手を動かす前に、
面倒を「言葉にする」

「毎朝この転記が面倒」「この確認作業、いつも同じことをやっている」
頭の中のモヤっとした面倒くささを、他人に説明できる言葉にする。
ここが全体の8割。ここさえ固まれば、仕事の大半は終わったようなもの。



2

つくる

その言葉を、AIに渡して
とりあえず作ってもらう

完璧な仕様書はいらない。

「こういう面倒な作業をこんな風に関にしたい」と伝えるだけで、
まずは形になる。

一人で「作れるかな」と悩んでいた時間が、驚くほど短くなった。



3

使う

できたものを、
自分で使ってみる

頭で考えるのをやめて、実際に触る。

すると、机の上では見えなかった

「ここが惜しい」「ここが使いにくい」が、すぐに出てくる。



4

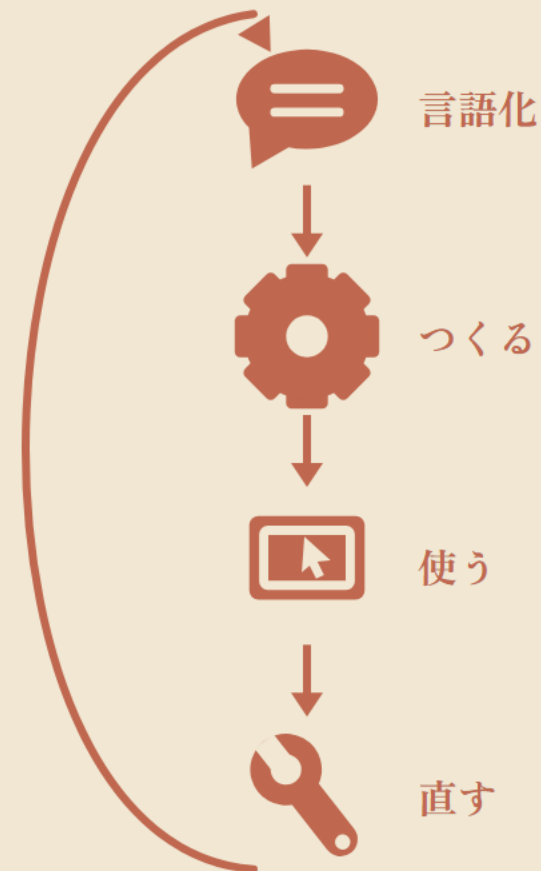
直す

その不満を、また言葉にして直す。
そしてまた使う

①に戻る。

この地道な作業を、飽きずに繰り返す。

それだけだ。



作ることより前の段階、 「言葉にすること」で勝敗が決まる

骨子がぼんやりしたまま作ると、何度回してもぼんやりしたものしか出てこない。

難所は「作る」ではなく、その手前にある。



クライアントワークなら、ここに“自分ごと”を足す

実体験

お客様の声

お客様の「ここが不便で」という生の声が、何よりのヒントになる。

想像力

自分ごと化

「もし自分がこのお客さんだったら」と、徹底的に自分ごととして想像する。



AIに任せること VS 自分が手放さないこと

AIに任せる

- ・実装すること、作ること
- ・面倒な繰り返し作業
- ・とりあえず形にすること

人が握る

- ・何が面倒かを見つける（言語化）
- ・自分ごととして想像すること
- ・最終的な判断と確認



正解を待つのではなく 小さく作って→使って→直す

誰かが「正しい使い方」を教えてくれるのを待つ必要はない。
自分の面倒くささから始めて、自分の手で仕組みを育てる。
それは、誰の許可もいらない。

無料で診断してみる →

ai-sozo.com/diagnose

